

令和 6 年 度
益城町社会福祉協議会
事業報告書

社会福祉法人
益城町社会福祉協議会

令和6年度益城町社会福祉協議会事業報告書

目次

総括	P 1
I. 支え合いとつながりを大切にした地域づくり	
1. 地域包括ケアの深化・推進	P 2
2. 民生児童委員等と連携した見守り活動	P 3
3. 障がいの理解促進等のための交流会や啓発の実施	P 4
4. 福祉ワークショップの開催	P 5
5. 地域での子育ての推進	P 5
6. 地域コミュニティ支援の充実	P 6
7. 「地域の縁がわ」事業の支援	P 6
8. 交流機会の推進	P 6
9. ボランティア人材の募集と養成	P 7
10. 学校と連携したボランティア活動の推進	P 9
11. ボランティア活動の支援	P 9
12. 地域福祉まつり（社協まつり）開催	P 9
II. 安心していきいきと暮らし、活躍できる地域づくり	
13. 地域活性化のための課題の把握	P 10
14. 地域行事の開催支援	P 10
15. 地域サロンの推進	P 11
16. 地域サロンサポーター養成講座の開催	P 15
17. 支え合いの仕組みと活躍の場の提供	P 15
18. 地域福祉合同研修の実施	P 15
19. 福祉体験学習の実施	P 15
20. 高齢者の活躍支援（シルバー人材センター）	P 17
21. 地域防災力の強化	P 20
22. 災害ボランティアセンター	P 21
23. 社協活動の広報	P 22
III. 困りごとを見過ごさない地域づくり	
24. コミュニティソーシャルワーカー配置事業の実施	P 22
25. 福祉相談の充実	P 26
26. 相談体制強化に向けた連携	P 28
27. 見守り体制の充実	P 28
28. 認知症に関する地域支援	P 29
29. 介護に関する福祉サービスの充実	P 31
30. 成年後見・市民後見等の検討	P 33
31. 生活困窮者への支援	P 34
32. 福祉関係団体事務局への協力、事業所との連携	P 35
33. 町や地域の多様な主体との連携強化	P 35
34. 関係団体への活動支援	P 36
IV. 社会福祉協議会の体制整備	
1. 社協体制の強化	P 36
2. 財政基盤の強化	P 38

令和6年度 益城町社会福祉協議会事業報告書

総 括

平成28年熊本地震から9年が経過する中、県道4車線化工事、土地区画整理事業等の公共工事が進み、住民の自宅再建先や災害公営住宅等での落ち着いた生活が戻り、また、新型コロナウイルス感染症拡大も落ち着いたことで、各関係機関、団体、行政等との協力のもと、対面での各事業を実施することができました。

具体的には、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施されたコロナ特例貸付世帯に対しフォローアップ事業を展開し、現在の生活状況等のアンケート実施や架電、面談を行えたことで、必要に応じた償還猶予、免除の手続きや次の施策等への寄り添った支援を行うことができました。

また、本事業に移行して2年目を迎えた重層的支援体制整備事業では、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)を中心として、行政区別福祉座談会や心配ごと相談、近隣住民、関係機関等からの情報により、困りごとを見過ごさないアウトリーチを通じた継続的支援に取り組み、横断的な支援体制づくりの実現に向け、ネットワークの構築を図ることができました。

地域コミュニティづくりでは、生活支援コーディネーター(SC)、地域サロンコーディネーター(ASC)、認知症地域支援推進員を中心に主催事業や講座の開催、地域サロン等により、地域で活躍できる場の提供や、地域見守り活動の把握及び情報の共有化をより深めることができました。

シルバー人材センター事業では、町民や企業等の多様な依頼に対応できるよう、定期的な入会説明会や広報ましきを通じての周知、現会員をモデルとした会員募集のポスターを町内商業施設等に掲示を行うことで、会員増につながり、長年培ってきた知識、技能、経験を活かした役割を発揮することができました。

最後に、「未来に向かって 地域で支え合う 福祉のまち益城」を基本理念とした第4期益城町地域福祉計画・地域福祉活動計画(令和5年度～令和9年度)に沿って、今後も社会福祉協議会の使命である住民が主体となる地域福祉推進のために、子どもから高齢者までが住み慣れた地域で安心して生活することができるよう、福祉のまちづくりを目指し役割を果たしてまいります。

Ⅰ. 支え合いとつながりを大切にした地域づくり

【地域共生社会の実現に向けて】

1. 地域包括ケアの深化・推進

益城町では、全世帯を対象とした地域包括ケアを推進しています。従来の課題の他に、8050問題、ヤングケアラー、一人暮らし高齢者、障がい者、子ども等の課題が確認されており、生活ニーズの把握や地域支援とのマッチング等、より深化した取り組みを行いました。

(1) 多職種連携・地域ケア会議

定期的に行われる多職種連携会議への参加を通じて、社会資源及び関係機関・団体の活動を把握し、地域や個別の課題解決支援に活かしました。また、地域ケア会議に参加し、多職種と協働し自立支援や生活の質の向上などの支援の充実に努め、介護支援専門員等へ地域資源の活用等の提案を行いました。

(2) 生活困窮者自立支援事業

総合相談窓口として住民の困りごとを傾聴し、一人ひとりに寄り添った支援を実施しました。相談に来所できない方、ひきこもり等の課題を抱えている方に対しては、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)や多機関との連携を通じてアウトリーチ支援を包括的に実施しました。

また、上下益城圏域(御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町、美里町)の6町で支援調整会議を開催し、相談支援、プラン作成等を行いました。物価高騰等により困窮している世帯も多く、生活維持が困難な世帯へ家計改善支援事業での支援や物資支援を実施しました。

・相談件数:103件

相談内容	生活	仕事	住まい	子ども(家庭)	その他	合計(件)
件数	42	13	18	10	20	103

(前年度90件:生活36件、仕事9件、住まい17件、子ども(家庭)6件、その他22件)

・事業への同意者数:17件

(前年度:15件)

・プラン作成数:19件

(前年度:16件)

・住居確保給付金:0件

(前年度:1件)

・支援調整会議開催回数:12回 案件102件(うち益城町33件)

(前年度:12回 案件92件)

物価高騰の影響を受け生活に困っている方の相談対応を行いました。

・物価高騰緊急支援事業(食費支援及び公共料金、保険代、交通費支払い等):2世帯

・物価高騰緊急支援事業(物資支援):17世帯

(3) 生活支援コーディネーター(SC)

高齢者を含む地域住民が、住み慣れた地域で生きがいを持って生活を継続していくために、住民主体の生活支援サービスの開発へ向けて協議体や講座の開催をしました。また、見守りや交流の場、居場所づくりなど「つながり」のある地域づくりや社会参加の推進を行いました。

①地域活動の担い手づくり

地域福祉活動の担い手育成を目的に地域福祉塾を開催しました。

※9. ボランティア人材の募集と養成(2)①に掲載

②ニーズと地域資源のマッチング及び新たな福祉サービスの創出

・エンジェルのはーと 編み物で地域支援(認知症マフづくりの会)

認知症マフを作成し、ひろやす荘への寄贈活動ができました。

また、社協だよりで活動周知を行ったことで、担い手として活動増員へも繋がりました。

・健康麻雀

講座修了後、月2回(土曜日)安永公民館で住民主体の取り組みと活動が継続できています。

③属性ごとの居場所づくり

地域食堂の開催支援(担い手マッチングと運営補助)

今年度は、子育て支援方法をはなえみ保育園岩本先生よりサポートいただいて活動

④体制整備を推進するための協議体の開催及び運営

2月27日(木) 17:00～ 野口商店

第1層協議体開催「世代を超えた絆の構築」～みんなが集える場所を目指して～

について情報共有と意見交換

⑤日常生活圏域で活動する第2層生活支援コーディネーターとの協働

第2層協議体参加支援 2回

8月6日(火) 14時～ 見守りについて(ケアポート益城)

3月18日(火) 10時～ 有償ボランティアについて(ひろやす荘)

⑥他支援機関等との連携 ケア会議・研修会・県内SC 意見交換会・情報共有会議

(4)見守りネットワーク推進の支援

支援対象者を中心に、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員による訪問活動を行いました。また、必要に応じて関係機関等と連携し、見守り体制の充実に努めました。

(5)困難事例への対応

生活困窮者自立支援事業、総合相談窓口、コミュニティソーシャルワーカーの包括的相談支援として、住民の課題解決に努めました。社協単独での課題解決が難しいケースもあり、障害のある方は障がい者ワークライフサポートセンター縁、自立に課題のある方は県ひきこもり地域支援センターゆるここ、住まいに課題のある方は居住支援の不動産業者等と連携し支援を行いました。多機関連携を通じて包括的な支援を実施しました。

2. 民生児童委員等と連携した見守り活動

一人暮らし高齢者、在宅介護者、要支援者等の生活課題を抱えている個人・世帯の実態把握を行いました。

(1)見守り活動の支援

各種団体での例会等で地域見守り活動の啓発や協力要請を進めました。

また、民生委員児童委員協議会の協力を得て、一人暮らし高齢者世帯や在宅介護者及び要介護世帯の実態調査を行いました。

①高齢者世帯の実態調査(65 歳以上一人暮らし)

(第1回 調査時期:4 月)

(前年度:742 名)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
73	159	183	190	58	72	735

(追加等時期:9 月)

(前年度:706 名)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
76	157	184	206	57	74	754

②在宅介護者及び要介護世帯の実態調査

(調査時期 10 月)

(前年度:209 世帯)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(世帯)
15	46	31	58	8	42	200

(2) 高齢者相談・地域福祉委員

高齢者やその家族が抱えている多くの悩みや課題に対し、高齢者相談・地域福祉委員の見守りや訪問活動を通じて高齢者福祉の推進を図り、スキルアップを目的に例会を 4 回開催し、研修や情報共有を行いました。

開催日:6 月 7 日(金) 第 1 回例会

内容:介護予防について～自立した生活のためのサービスについて～

講師:町役場健康保険課 保健事業係 大賀 完氏

9 月 5 日(木) 第 2 回例会

内容:訪問診療について～地域の医療資源を知ろう～

講師:ましき在宅診療所 院長 藤本哲弘氏

12 月 10 日(火) 第 3 回例会

内容:介護保険について～福祉用具の活用方法を学ぶ、ふれる～

講師:株式会社ミタカ 他

3 月 5 日(水) 第 4 回例会

内容:災害時について考える～珠洲市災害ボランティアセンター報告～

講師 社会福祉協議会 在宅福祉課 橋本職員

定数 38 名に対し、4 地区不在のため区長、民生児童委員等へ電話や同行訪問等を行い、7 月から辻団地地区、8 月から安永 1・2 地区(その後 12 月に退任)が就任。現在、3 地区が不在となっている。

(3) 関係機関の情報共有会

1 月に民生委員児童委員協議会の総務会と事務局長、次長、課長、係長出席のもと、事業等についての話し合い、情報共有を行いました。

3. 障がいの理解促進等のための交流会や啓発の実施

地域での障がい者への理解やノーマライゼーションの推進を目的として、福祉団体親善スポーツ大会を行いました。

(1) 福祉団体親善スポーツ大会

地域で活動している各福祉団体の交流と障がい者の社会参加の促進、社協と各福祉団体との連携強化、見守りを目的に開催し、多くの団体が交流し、顔合わせを行うことができました。

【開催日】2月6日(木)

【場所】総合体育館メインアリーナ 【内容】スカットボール

【参加団体】12団体 122名

身体障害者福祉協会、老人クラブ連合会、民生委員児童委員協議会
高齢者相談・地域福祉委員、グラウンドゴルフ協会、婦人会、区長会
シルバー人材センター、地域福祉塾、健康マージャン、地域サロン応援隊
ボランティア連絡協議会

(2) 福祉体験学習

これまで、地域や学校に出向いて、福祉への意識を高めるために福祉体験(車椅子・高齢者疑似体験等)を行っていました。体験を指導する立場から、福祉教育の研修会等へ参加し、見識を深めました。

(3) ワークキャンプ

※19.福祉体験学習の実施の(1)に掲載

4. 福祉ワークショップの開催

地域の課題把握や気になる方の情報共有の場として、福祉ワークショップを行政区別福祉座談会として継続的に開催しました。

(1) 福祉ワークショップ（福祉座談会）の開催

※24. コミュニティソーシャルワーカー(CSW)配置事業の実施の(3)に掲載

5. 地域での子育ての推進

少子化や核家族化、情報化の進展により、人間関係が希薄化している傾向にある中で、親子のスキンシップの大切さ、子育ての悩みや不安に思っていることを話せる機会を持つことで、思いを共感し合い、子育てに自信を持ってもらうことを目的に、子ども・親同士の交流や日頃子育ての悩みや不安に思っていることを話せる場作りとして、親子のスキンシップ方法を学ぶ場を提供しました。

①7月3日(水)参加者8組18人 7月11日(木)参加者:12組12人

場所:益城町総合体育館 武道場

講師:日本赤十字社 熊本支部

内容: 7月3日(水) 子どもが病気の時の看病の仕方

7月11日(木) 乳幼児の一次救命処置、AEDを使った心肺蘇生法

②11月7日(木)参加者:5組(10名)

場所:市ノ後団地集会所

講師:グリーンコープ生協くまもと ワーカーズ・コレクティブ「食育の会わくわく」

内容:家事時短する為の取り分け離乳食の作り方

メニュー:取り分け野菜のクリーム煮、さつまいも団子、軟飯

【ふれあい・交流の充実に向けて】

6. 地域コミュニティ支援の充実

地域行事や研修会等の開催及び参加を通じて、社会福祉協議会職員と地域住民との顔見知りの関係をつくりました。

(1) 福祉ワークショップ（福祉座談会）の開催

※24. コミュニティソーシャルワーカー(CSW)配置事業の実施の(3)に掲載

7. 「地域の縁がわ」事業の支援

地域のつながりを強化するために「地域の縁がわ」事業の紹介や先進事例の情報提供等を行いました。

・申請相談 手続き等の案内 2件

8. 交流機会の推進

(1) ふれあい交流会

民生児童委員の協力により、町内に在住されている一人暮らし高齢者を招待し、外出の機会を提供する集合形式のイベントを実施しました。また、外出などが難しい方へ参加者同士の交流を図る心の交流を目的に、小学生等へメッセージカード作成を依頼し、民生児童委員の協力により配布しました。

①第1回 ふれあい交流会（春）

メッセージカード配布

校区	飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
人数	73	159	183	190	58	72	735

②第2回 ふれあい交流会（秋）

集合形式

校区別参加者	飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
対象者	3	20	15	24	7	10	79
民児協	3	11	6	6	3	6	35
合計	6	31	21	30	10	16	114

日程:9月26日(木)木山校区 益城町交流情報センターミナテラス

10月3日(木)飯野、広安校区 益城町保健福祉センターはびねす

10月16日(水)津森、福田校区 津森分館

10月25日(金)広安西校区 益城町交流情報センターミナテラス

内容:・社協の事業説明「つながりバトン事業について」 社会福祉協議会 在宅福祉課

・講座 寸劇『電話で「お金」詐欺』 熊本人権擁護委員協議会 上益城部会より

・みんなで盆踊り 社中「みんなで踊ろう盆踊り」

(2) 福祉団体親善スポーツ大会の開催（再掲）

(3) 在宅介護者のつどい

在宅で介護をしている方を対象に、当事者同士の交流と介護から離れて気分転換することを目

的に、意見交換会や講座等を開催しました。

(第1回) 6月26日(水) 益城町交流情報センターミナテラス 会議室

実施内容:介護教室「介護者が知っておきたい口腔ケア」

講師:共愛歯科医院 副院長 園田隆紹 氏

介護者同士の意見交換会 (前年度:14名)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
1	1	2	5	1	0	10

(第2回) 11月22日(金) 益城町復興まちづくりセンターにじいろ

定食&café マシキーナ にて

実施内容:介護教室「介護者が知っている」と便利な栄養の話」

講師:熊本県栄養士会 福祉事業部部長 住永貴美子氏

交流会「食事懇親会」「意見交換会」 (前年度:15名)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
1	3	3	5	1	1	14

【ボランティア活動の活性化に向けて】

9. ボランティア人材の募集と養成

地域で活動するボランティア人材の確保のために、地域福祉への理解促進や協力要請を行いました。また、各種ボランティア団体が実施している人材養成への支援、情報や機会の提供等を行いました。

(1) 情報・機会の提供

ボランティアや地域活動に興味関心のある方に対し、講座等情報の提供やまちづくり活動支援センター、ボランティア連絡協議会の紹介を行いました。

(2) 人材養成支援

① 地域福祉担い手養成講座

a. 地域福祉塾

地域の現状と課題を理解し、地域福祉や制度を学び、地域の担い手(支え手)育成のため、地域福祉塾を開催しました。受講後は、「こんな活動あったらいいな～」計画に沿って塾生ごとに自分のできる地域福祉活動に取り組んでいただきました。

講座 1～10 講座 参加人数:7名

開催日	内容
7月24日(水)	【講座1】集いの場の必要性
7月31日(水)	【講座2】安心して暮らせる地域づくり
8月8日(木)	【講座3】成年後見制度
8月16日(金)	【講座4】介護保険制度・認知症の取り組み
9月5日(木)	【講座5】包括支援センター・生活支援コーディネーター
9月12日(木)	【講座6】高齢者の地域見守り
9月27日(金)	【講座7】地域サロンの取り組み
10月4日(金)	【講座8】お出かけ支援隊について

10月10日(木)	【講座9】復興・地域のつながり
10月16日(水)	【講座10】これからの取り組み

b. 健康麻雀講習会

健康麻雀講活動を、コミュニティのツールとし地域住民互助や気軽に立ち寄れる居場所づくりを目的に開催しました。

受講者:12名 時間:13時30分～16時30分(3時間)

開催場所:惣領3町内公民館

開催日	
9月6日・13日・20日	1月10日・17日・24日
10月11日・18日・25日	2月7日・14日・21日
11月8日・15日・29日	3月7日
12月6日・13日	

②修了生へのワークショップ

地域活動へ繋がるように、修了生の希望する住民主体の活動団体の体験を行いました。

また、高齢者向けの地域住民ワークショップを開催しました。

3月19日(水)・27日(木) 第3回地域づくりセミナー開催 (住民向けセミナー合同)

「スマートフォン・タブレット体験セミナー」

講師:アビリティスクール マリオネット 村上奈美氏

③活動支援

受講生の地域活動計画をもとに、活動グループの立ち上げ、活動ニーズとのマッチングなど継続的支援を行いました。また、地域食堂・男性の集いの場支援など修了生が支援する仕組みづくりを構築しました。

・エンジェル♡はーと(認知症マップづくり) 編み物を通じてのコミュニティ活動と町施設へ
認知症マップ寄贈活動

・健康麻雀 月2回 公民館にて活動

・ましきお出かけ支援隊 ボランティアによる高齢者の外出(買い物や通院)などのサポート活動地区拡大

新規:畑中団地利用者1名

継続:畑中団地利用者2名・田原第2団地4名

・おしゃべり相手ボランティア 訪問 2件(毎週1回・月1回)

・かるた大会(皆乗寺) ましき歌留多を使い多世代交流と文化財を広める活動

・ふれあい会 イベントや趣味の活動を通じて地域住民つながり・交流活動

・集まれ見守りボランティア 登下校見守りグループの交流活動

・みんなで踊ろう盆踊り 盆踊りを通じて地域での多世代交流

・ばあばあい一つ(地域食堂) はなえみ地域食堂支援

④研修会

修了後の活動から見た地域課題等について、グループごとの会議や例会に参加し課題について意見交換を行いました。

10. 学校と連携したボランティア活動の推進

児童・生徒へのボランティア活動の意義や機会の提供のため、学校に出向きボランティア協力校の意義や目的を説明し、校内外でのボランティア活動の支援を行いました。

(1) ボランティア協力校活動助成

町内の全て(7校)の小中学校をボランティア協力校として指定し、校内外のボランティア活動の充実を図るために助成を行いました。

11. ボランティア活動の支援

ボランティア活動推進のために、町内のボランティア活動団体を把握し、交流機会や情報交換できる場の提供を行いました。

(1) ボランティア情報発信及び保険事務

ボランティア保険取扱い事務

(内訳)

・活動保険(災害によるボランティア活動を含む)	34 件(323 名)	(前年度:55 件 524 名)
・行事用保険	147 件(9,177 名)	(前年度:74 件 3,443)
・保険金請求手続き	1 件	(前年度:1件)

惣領1町内サロン参加者:公民館前で会話中気分が悪くなり転倒。右大腿亀裂骨折

入院期間 22 日(行事用保険 往復途上)

(2) まちづくり活動支援センターとの連携

定期的(月 1 回)に、まちづくり活動支援センターと情報共有を行い町内のボランティアの把握を行いました。

(3) ボランティア連絡協議会の活動支援

- ・5 月 21 日(火):県ボランティア連絡協議会総会・第1回理事会 参加
- ・12 月 6 日(金):県ボランティア連絡協議会第2回理事会 参加
- ・3 月 13 日(木):県ボランティア連絡協議会第3回理事会 参加

(4) ボランティア交流会

今後のボランティア活動の推進を図るために、第 15 回火の国ボランティアフェスティバル阿蘇ブロック大会へ参加し、町内の福祉団体、ボランティア活動者とともにボランティア団体同士の情報交換と親睦を深めることが出来ました。

開催日:11 月 30 日(土)

開催場所:西原村総合体育館

参加者:30 名

(5) 運営委員会

- ・3 月 6 日(木)県ボランティアセンター運営委員会 参加 県ボランティアルーム

12. 地域福祉まつり(社協まつり)の開催

地域住民の福祉への理解と住民同士の連携を図り、社会福祉への興味・関心を広めることを目的に開催しました。また、ボランティア団体の展示ブースを設置し、紹介及び日頃の活動発表の場を設けました。

日時:12月21日(土) 10時～14時

場所:保健福祉センターはびねす

参加者:約250名(来場者、協力団体、ボランティア、発表者)

【ステージ部門】

- ・オープニング 葉山悠介氏ダンス発表
- ・地域活動発表(ワークキャンプ体験、地域活動、能登半島支援)
- ・地域貢献、町民表彰(みゆき&おーとるず演奏)
- ・本橋馨氏講演発表(紙芝居2作品、ハイ&ローゲーム含)

【展示・体験部門】

- ・老人クラブ連合会の昔あそび ・ボランティア連絡協議会のパネル展示
- ・たんぽぽ、土曜スマイル会の手芸品展示 ・ふれあい交流メッセージカード展示
- ・べんがらの絵本の読み聞かせ ・お出掛け支援隊の日常支援の説明
- ・こまどりの朗読体験・パネル展示
- ・防災用品、福祉用具展示

【飲食・販売部門】

- ・土曜スマイル会、編み物の会、ひまわり会手芸品販売 ・メナードのハンドマッサージ
- ・益城病院パンとカフェ販売 ・お茶しませんか、シルバー人材センター野菜販売
- ・そよかぜ福祉作業所の販売

協力団体:民生委員児童委員協議会、老人クラブ連合会、

そよかぜ福祉作業所、特定非営利活動法人 BULBY(バルビー)・熊本なつかしか隊

II. 安心していきいきと暮らし、活躍できる地域づくり

【地域の活性化に向けて】

1 3. 地域活性化のための課題の把握

様々な立場の人からの意見収集を通じて課題把握に努め、地域住民と一緒に課題解決に向けた取り組みを進めました。

(1) 各種団体会合への参加

各団体の会議等に参加し、意見交換や地域福祉推進の情報提供を行いました。

(2) 高齢者相談・地域福祉委員(再掲)

(3) 福祉ワークショップ(福祉座談会)の開催(再掲)

※24. コミュニティソーシャルワーカー(CSW)配置事業の実施の(3)②に掲載

1 4. 地域行事の開催支援

地域行事を通じて、地域コミュニティ活動や助成金活用の支援と用品の貸し出しを行いました。また、活動状況については、広報紙等を活用し情報発信を行いました。

(1) 助成事業の実施（共同募金配分金、日赤交付金）

・小地域活動配分金の活用

行政区単位の地域に対し、令和 5 年度赤い羽根共同募金及び令和 6 年 5 月の日赤会費の実績に応じて小地域活動配分金を配分し、地域活性化の活動に活用していただきました。

小地域活動配分金額 共同募金:332,650 円 日赤:328,570 円(68 行政区)

(2) レクリエーション用品等の貸し出し（社協備品含む）

地域のイベントや住民の方々の活動支援として、各種レクリエーション道具等の貸し出しを行い、自主的な活動へつなげることができました。

貸出先:地域サロン、学生ボランティア、老人クラブ、地域住民の活動等

種 類:輪なげ29件、スカットボール19件、ボッチャ4件、脳トレパズル1件、

ターゲットゲーム2件、きみまろDVD4件、ガンバルーンボール2件、つりっこ3件、

ビーンボーリング1件、ましき歌留多4件、マイク2件、ラダーゲッター4件、

なるなる体操2件、ストラックアウト1件、カーレット1件、お手玉1件、モルック1件、

トランプ1件

計83件

15. 地域サロンの推進（地域サロンコーディネーター（ASC）設置事業）

誰もが安心して生活できるよう住民相互の助け合いや支え合い、地域での役割・生きがいづくり、仲間づくり活動を広げていくために、地域サロンの継続的開催支援、自立化に向けた支援を地域の関係者と協力して実施しました。

(1) 地域サロン運営支援（61 地区 55 ヶ所）

①地域サロン運営の相談対応（496 件）

地域サロン継続に関する相談ごと、申請及び報告書の記入方法について対応しました。実施内容についての相談は、説明会や地域サロン交換ノートを活用し、全サロンの活動内容を情報共有しました。

	内容	件数
1	社協支援	95
2	マイクロバスの調整	49
3	道具の貸出、使い方の説明	58
4	申請・報告書の記入方法の説明	55
5	困りごとに対しての相談対応(電話対応も含む)	41
6	開催状況把握と関係機関との調整	134
7	保険の申請及び変更時の調整	64

②地域サロン協力員の支援（1 件）

地域サロン協力員交流会の開催の中で、他市町村サロンや相互の交流や意見交換、情報共有の場づくりを行いました。

③開催状況把握と関係機関との調整

毎月のサロン開催内容と参加人数を代表者に確認し、日頃のサロンの情報収集を行い、多世代交流、外出サロン、参加の声かけ方法など各地域サロンに情報提供しました。地域サロンを支援するボランティア団体及び各関係機関との日程調整を行い、支え合い活動を広めていくよう

支援しました。

今年度の新規参加者 19 名(把握分)

④保険の申請及び変更時の調整

サロン活動が安心して開催できるよう、ボランティア行事保険に加入していただきました。地域行事と重なり、日程の変更や中止などがあり、新たな実施日と内容の変更など再調整し、ボランティア行事保険の事務連絡調整を行いました。

今年度は開催中に 1 件の事故が発生し、損害保険金請求を行いました。

※11(1)ボランティア情報発信及び保険事務(再掲)

(2)地域サロン活性化支援

①地域の福祉関係者(区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員等)からの相談及び情報共有

地域サロン開催中、地域での困りごと、個人の相談対応を行い、必要に応じて各関係機関へつなぎました。

②他市町村や地域の福祉事業所との情報共有

・7 月 24 日(水)御船町社会福祉協議会とサロンへの関わり方について意見交換を行い、自立しているサロンへ参加しました。

場所:御船町高山ニコニコサロン

活動の様子、運営方法、ボランティアの活用方法について意見交換が出来ました。

・10 月 9 日(水)御船町の自立しているサロンへ参加し、10 月 29 日(火)の地域サロン協力員交流会発表の依頼を行いました。

場所:ぎんなんクラブ

③地域サロン活性化を目的とした各関係者の交流開催、申請と報告書作成の説明会開催【地域サロン協力員交流会】

10 月 29 日(火)

場所:交流情報センターミナテラス(視聴覚室)

内容:活動発表(3ヶ所)古閑ミニサロン、木山下辻団地まほえみ会、御船町ぎんなんクラブ

④地域サロン間での情報共有

地域サロン交換ノートを活用し、自立している地域サロンの活動内容やボランティア情報等を全サロンに情報提供しました。

(3)地域サロン立ち上げ再開支援

区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員へ地域の集まりなどの現状を聞き取り、地域サロンの立ち上げ等について提案しました。

①サロン休止地域との情報共有

区長と地域サロン立ち上げについて、他地域サロン活動の様子を情報共有しました。

②サロン未設置地域との情報共有

・地域サロン立ち上げについて、本土山地区の区長へ地域サロン交換ノートを活用し、他地域サロン活動の様子を情報共有しました。月 1 回の集まりの場を設け、地域サロン交流会(1回/年)や説明会(1回/年)、地域サロン応援隊(1回/年)等へ参加の声かけを行いました。また、サ

ロン開催につなげるために、地域サロンに登録しているボランティアに協力いただき、サロン開催地域の活動状況を知ってもらう機会を設けました。

- ・世帯数が少ない新川地区では、民生児童委員と同行訪問し、近隣サロンへの参加の声掛けを行いました。

- ・黒石崎地区の福祉座談会に参加し、区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員と地域サロン立ち上げについて、他地域サロン活動の様子を情報共有しました。

(4) 多世代交流の推進

地域サロンの継続した実施のために、子どもから高齢者まで集える場づくりを計画、実施しました。また、多世代交流をされている様子を社協だよりや説明会等で情報提供しました。

- ・地域サロンで多世代交流をされたサロン

年間計画の中で多世代交流を行ったサロン(7ヶ所)：

中砥川・下鶴、櫛島、古閑、安永3、市ノ後団地、木山下辻団地、上陳

夏休み等長期休暇中に多世代交流を行ったサロン(16ヶ所)：

中砥川・下鶴、飯田、土山、島田、広崎2、広崎4・5、小峯、惣領1、惣領3、惣領4、

安永4、木山下辻団地、蛭子町、下灰、寺中、杉堂

(5) 新たな居場所の創設

地域サロン参加者や地域関係者等からニーズを把握し、地域に必要な新たな居場所づくり、創設のコーディネートを実施しました。

- ・本土山地区：毎月1回(農業繁忙期を除く) 場所：本土山公民館 時間 13:30～

(6) 広報活動

① 社協だよりへの掲載

- ・毎月の社協だよりを通じて各地域サロンの紹介記事(写真や活動内容)を掲載しました。
- ・毎月の社協だよりで、参加者に心情を川柳にいただき「つぶやきサロン」の掲載をしました。

② ましきサロンだより かたんなっせ！の発行

各地域サロンの開催日時や地域サロン応援隊養成講座のお知らせ、工夫してサロンを実施されている地区の紹介などを掲載し、サロン参加への呼びかけのために活用できるよう、サロン参加者や代表者に配布しました。

(7) 地域サロン自立化支援

① 地域サロンの自立に向けた支援

年間計画づくりについては、地域サロン交換ノートを活用し、サロン参加者同士で話し合いながら作成できるよう、自主的に活動されているサロンや地域サロンに登録しているボランティアの情報提供なども行い、自立した支援にも努めました。

② 地域活動の担い手育成

〈地域サロン応援隊養成講座の開催〉

地域サロンを住民主体で活動していくことへの重要性及びサロンの活性化を図ることを目的として、地域サロン応援隊養成講座を開催し、地域サロンで中心となって活躍していただくためのサポーターを養成しました。また、地域サロンを継続するためにサポートするボランティアも新た

に増えました。

講師:熊本県レクリエーション協会 会長 上野祥子氏

場所: 益城町交流情報センターミナテラス視聴覚室等

開催日	内 容	受講人数 (名)
8月28日	【講座1】身近な道具を使ったレクリエーション	20
9月4日	【講座2】ニュースポーツと体力測定をやってみよう	19
9月18日	【講座3】認知症を打破するレクリエーションと道具作成	16
10月11日	【講座4】ミュージックケアとまとめ	18
1月29日	フォローアップ 「Let`sみんなで楽しく復習&研修」&第1期～第4期交流	29

◎地域サロン支援

4期修了者の実践の場として下記のサロンへ支援調整を行いました。

活動日	活動先	活動内容	人数(名)
10月16日	上砥川さくら会	トランプ、サイコロ遊び	2
10月17日	谷川わくわくサロン	お手玉、じゃんけん遊び	2
10月18日	畑中あつまろう会	お手玉、脳トレ	1
10月25日	杉堂サロン	脳トレ	1
11月1日	市ノ後サロン青空	脳トレ	2
11月8日	惣領1町内ニコニコ健康サロン	じゃんけん遊び、手遊び	4
11月13日	下町健康清正公会	じゃんけん遊び、トランプ	1
11月18日	サロン下灰	トランプ、体操	2
11月26日	広崎4.5町内サロンよつ葉会	体操、じゃんけん遊び	2

今年度、地域サロンボランティアとして登録された方(3名)、活動(9件)

大井冬美氏

・12月13日(金)惣領1町内ニコニコ健康サロン 内容:紙芝居、歌 2名

松永陽一氏

・7月13日(金)惣領1町内ニコニコ健康サロン 内容:指の体操 1名

・8月23日(金)本土山お茶会 内容:どんぐり教室 2名

・9月19日(木)安永1町内元気サロン 内容:頭の体操、どんぐり教室 2名

・1月24日(金)上陳辻ケ峰サロン 内容:どんぐり教室 2名

西村文博氏・寺迫、木山下辻団地、川内田、平田上

・1月9日(木)木山下辻団地ほほえみ会 内容:トランペット演奏 1名

・1月14日(火)平田第一ふれあいサロン 内容:トランペット演奏 1名

・3月6日(木)寺迫古城会 内容:トランペット演奏 1名

今年度、他地域サロンで活動された方、活動場所:1名

高木サチ子氏

・2月14日(金)惣領1町内ニコニコ健康サロン 内容:漬物作り

1名

【地域人材の活躍と育成に向けて】

16. 地域サロンサポーター養成講座の開催

地域サロン活動の活性化と介護予防の増進を目的として、地域サロン応援隊養成講座を開催しました。

(1) 地域サロン応援隊養成講座 (再掲)

17. 支え合いの仕組みと活躍の場の提供

地域住民等が、地域生活課題を把握し解決を図る試みができるように地域における住民主体の支え合いの仕組みづくりを行いました。そのために、養成講座や各種団体と連携し、生活支援サービスの提供を行い、支え合いと活躍の場の提供に努めました。

(1) 連携強化 (生活支援コーディネーター協議体、地域包括支援センター等)

- ・生活支援コーディネーター協議体会議の開催
- ・地域包括支援センターとの連携会議
- ・ケア会議で地域活動や通いの場の情報提供(通いの場マップ)
- ・通所型サービスCカンファレンスで地域活動や通いの場等の情報提供

(2) ちょこっとサービスの実施 (シルバー人材センター)

日常生活支援サービスの1つとして、介護保険サービス等の各制度では対応が難しい生活問題(室内清掃、買い物代行、ゴミ出し等)をシルバー人材センター会員が有料で対応しました。また、活動を通じ特に女性会員の活躍につながりました。

- ・受注件数: 21 件
- ・就業延人員(人日): 261 名

(3) 地域福祉の担い手育成、活動支援 (再掲)

18. 地域福祉合同研修の実施

地域人材の育成とつながりを推進するために合同研修会を実施し、研修では地域福祉に関することや活動事例の紹介等を行い、地域課題の共有及び解決に向けた機会となりました。

(1) 地域福祉合同研修会の実施

※24. コミュニティソーシャルワーカー(CSW)配置事業の実施の(3)に掲載

19. 福祉体験学習の実施

社会福祉施設等での体験学習を通じて、福祉への理解を深め、ボランティア活動のきっかけづくり、社会連帯感の高揚を図ることを目的に実施しました。

9月には、中学生の職場体験(益城中学校、木山中学校)の受け入れを各校2名ずつ行いました。

(1) ワークキャンプ

福祉施設等における体験活動(ワークキャンプ)を通じて児童・生徒及び社会人が福祉への理解を深めることを目的として実施しました。

施設名	日程	学校名(学年・人数)
シルバーライフ熊本	8月5日(月)	木山中1年3名
グリーンヒルましき	8月5日(月)	益城中3年1名
	8月6日(火)	益城中3年1名
	8月7日(水)	益城中3年1名
	8月8日(木)	益城中3年1名
	8月9日(金)	益城中3年1名
花へんろ	8月5日(月)	広安小4年2名6年1名 益城中1年2名2年2名 社会人1名
	8月7日(水)	広安小4年1名 益城中1年2名2年2名
	8月8日(木)	広安小4年2名,益城中2年1名 社会人1名
	8月9日(金)	広安小4年1名、6年1名 益城中2年2名
熊東園	8月6日(火)	益城中1年1名 木山中1年1名
	8月8日(木)	木山中1年1名
そよかぜ福祉作業所	8月6日(火)	益城中3年1名
	8月8日(木)	広安西小5年1名
	8月12日(月)	益城中3年1名
	8月13日(火)	益城中3年1名
	8月19日(月)	社会人1名
	8月20日(火)	社会人1名
いこいの里	8月7日(水)	木山中1名
	8月8日(木)	木山中1名
ほっとふぁみりい	8月7日(水)	中央小5年1名
パスワーク熊本	8月9日(金)	社会人1名
くりけっとくりけっと	8月15日(木)	中央小5年1名
	8月16日(金)	中央小5年1名
ひろやす荘	8月19日(月)	広安西小4年1名
	8月20日(火)	広安西小4年1名
	8月21日(水)	広安西小4年2名
	8月22日(木)	広安西小4年1名
	8月23日(金)	広安西小4年1名
ほっとプラス	8月21日(水)	益城中3年1名
寺迫サロン	8月1日(木)	社会人1名
福富サロン	8月7日(水)	益城中3年2名
櫛島サロン	8月8日(木)	社会人1名
上小谷サロン	8月19日(月)	社会人1名
杉堂サロン	8月23日(金)	社会人1名

※時間、内容は、施設の計画に沿って行う。

※参加人数:25 名

	小学 4 年	小学 5 年	小学 6 年	中学 1 年	中学 2 年	中学 3 年	社会人	計(名)
男	3	2	1	7	1	1	1	16
女	0	0	0	1	0	6	2	9
計(名)	3	2	1	8	1	7	3	25

ワークキャンプ事前学習会

日 時:7 月 26 日(金)14:00～15:30

場 所:益城町保健福祉センターはびねす2階工作室

参加者:19 名 不参加 6 名は個別で対応

(2)実習生受け入れ

熊本学園大学社会福祉学部 2 名

・8 月 19 日～9 月 25 日 うち 24 日間 3 年生 1 名

・2 月 12 日～2 月 19 日 うち 6 日間 3 年生 1 名

20. 高齢者の活躍支援

(1)シルバー人材センター事業の充実（基本理念：自主・自立、共働・共助）

高齢者がいきいきと地域社会で活躍できるよう、社会参加や活躍のための支援を行いました。

また、会員の確保に努め、町の施設や民間の店舗などに広報ポスターを掲示し、「広報ましき」への記事掲載や町内のイベント等での会員募集も行いました。

さらに、集合型入会説明会を平日に予定や仕事のある方なども参加しやすい週末に行ったことで幅広い年齢の住民に参加いただきました。

その他、就業以外にも奉仕活動やリサイクル活動、レクリエーション、社会福祉協議会の行事、ボランティア関連イベントへの参加を呼びかけ、地域社会との交流の場づくりに取り組みました。これらの取り組みにより、会員による地域貢献や、会員同士の親睦の促進につながりました。

会員 登録数	126 名 (前年度 118 名)	男性:90 名 女性:36 名 (前年度男性 89 名、女性:29 名)
受注件数	751 件 (前年度 825 件)	①管理的職業 0 件 ②専門的・技術的職業 2 件(大工作業等) ③事務的職業 0 件 ④販売の職業 0 件 ⑤サービスの職業 21 件(家事支援等) ⑥保安の職業 0 件 ⑦農林漁業の職業 425 件(農作業、剪定等) ⑧生産工程の職業 6 件(湖池屋作業等) ⑨輸送・機械運転の職業 1 件(湖池屋作業等) ⑩建設・発掘の職業 0 件 ⑪運搬・清掃・包装等の職業 296 件(除草・草刈含む) 【公共 27 件、企業 92 件、家庭 632 件】 (前年度:公共 43 件、企業 72 件、家庭 710 件)

就業 延人員数	9,432 人 (前年度 9,160 人)	
事業収入	57,995,495 円 (前年度 55,901,574 円)	配分金 46,571,837 円(前年度 45,386,560 円) 材料費等 4,438,068 円(前年度 4,137,683 円) 事務手数料 6,985,590 円(前年度 6,377,331 円)

(2) シルバー人材センター運営

①体制：会員数 126 名（令和 7 年 3 月末現在）

②班長会議（毎月 1 回）と各班の体制強化

〈班長会議〉計 12 回開催

毎月 1 回、定期的に班長会議を開催し、班の現状や課題について情報を共有しました。

会議では、班合同での作業の打ち合わせや全国のシルバー人材センターから発行される「安全就業ニュース」を利用し、事故発生状況を共有しました。また、班長を中心に安全な就業への意識を高めると同時に、各班間の連携を強化しました。

〈報告会〉計 2 回開催

・全体報告会

日時:7 月 25 日(木) 参加会員 38 名

場所:熊本県益城復興事務所及び旧中央小学校グラウンド跡地

内容:①令和 6 年度益城町シルバー人材センターの取組及び令和 5 年度事業報告

②講話「刈払機の危険性・安全な使用方法について」

講師 第一索道商事株式会社 代表取締役 平野隆三 氏

③刈払機実習(旧中央小グラウンド跡地にて草刈)

・班別報告会

日時:就業内容別に計 8 回開催

	日時	業種別	参加会員 (名)
1	3 月 11 日(火)	班に所属せず就業中の方	4
2	3 月 11 日(火)	剪定作業班	5
3	3 月 13 日(木)	草刈作業班	8
4	3 月 14 日(金)	一般作業 1 班	10
5	3 月 14 日(金)	一般作業 2 班	9
6	3 月 14 日(金)	一般作業 3 班	13
7	3 月 18 日(火)	益城クリーンセンターで就業中の方	15
8	3 月 21 日(金)	定期就業中の方	7
	合 計		71

場所:益城町保健福祉センターはびねす 工作室/会議室及び益城クリーンセンター会議室

内容:①令和 6 年度活動報告及び安全委員会報告・令和 7 年度事業計画確認

②諸連絡(会費改定、安全対策、就業報告書様式変更)

③次年度の班長及び安全委員選出/意見交換

③入会説明会の実施

〈随時型入会説明会〉 ※相談があった方へ随時説明

	男性	女性	合計(名)
参加者数	32	12	44
うち入会者数	25	7	32

〈集合型入会説明会〉 (年2回)

・日時:9月18日(水)

場所:益城町保健福祉センターはぴねす研修室

参加者:12名(男性7名/女性5名)⇒うち入会者:5名(男性3名、女性2名)

・日時:3月8日(土)

場所:益城町保健福祉センターはぴねす研修室

参加者:15名(男性5名/女性10名)⇒うち入会者:7名(男性3名、女性4名)

④安全就業を通じて事故防止に努める(傷害・賠償)

- ・会員の安全就業に対する意識を高めるため、定期的に安全パトロールを実施しました。(8回)
- ・安全委員会を開催し、他センターの安全就業に関する取り組みを共有し、今年度に発生した事故の検証などを行いました。(3回)
- ・県シルバー連合会と合同安全パトロールを実施(2年に1回)し、県内センターの安全対策情報の共有、当センターの課題等を話し合い、報告会を通じて全会員へ周知しました。
- ・班長会議や報告会で、全国の事故発生状況等を共有し、会員の安全意識の向上に努めました。
- ・事故が発生した草刈班では、事故検証・再発防止を目的に話し合いを実施し、動画を使い事故検証を行い再発防止に努めました。

・事故発生件数:9件(傷害:2件、賠償:7件)

前年度:7件(傷害2件、賠償5件)

⑤研修の実施

全体報告会(7月25日)を通じて、第一索道商事株式会社代表取締役社長平野隆三様を講師に招き、特に刈払機を使用時の会員同士が円滑に作業を進めるためのポイント、安全就業のために心掛けていることを共有し、意見交換を行いました。

⑥事業の情報発信

毎月社協だよりに会員の紹介や活動の様子などを掲載し、事業の広報、会員募集で情報の発信を行いました。

日時:10月20日(日) きままにスポーツ健康フェスタ

⑦地域貢献

普及月間(シルバーの日)に合わせ、地域貢献を目的に奉仕活動を実施しました。また、継続的にリサイクル活動も実施しました。

(奉仕作業)

日時:11月13日(水) 参加会員数:38名

場所:秋津川河川公園沿い

内容:ゴミ拾い

(リサイクル活動)

リサイクル BOX を常設し、会員の協力を得て、古新聞・雑誌や段ボールの回収を実施し、環境改善に貢献しました。また、これらを業者に持ち込み、町のリサイクル推進事業助成金の申請を行い、会員の集まりの場では、有意義に活用することができました。

(リサイクル活動実績)

	業者リサイクル料 (石坂グループ)	町リサイクル推進 事業助成金	計(円)
7月	1,800	2,880	4,680
11月	6,530	5,900	12,430
12月	2,480	1,800	4,280
計	10,810	10,580	21,390

⑧会員間の親睦

奉仕活動のあと、会員同士の親睦を目的としたレクリエーション(スポーツ大会)を開催しました。

日時:11月13日(水) 参加会員数:38名

場所:秋津川河川公園

内容:レクリエーション(社協レクリエーション道具を使用)

(3)重点目標

①会員の増員に向けた取り組み(令和6年度新規会員登録目標数:15名)

新規会員として32名が登録され、就業へつながりました。

・会員募集ポスター掲示及びチラシ設置

(ハローワーク上益城、町内17カ所:町施設、商業施設等)

・町広報誌「広報ましき」を通じての会員募集

・共同募金報告会での事業説明(対象:区長)

②新規就業先及び職種の確保

新たに公共施設、企業等の定期就業先等を確保しました。

・生涯学習課(谷川展望広場清掃)、湖池屋(テストフライ作業、芋の根摘み作業)、
阿蘇くまもと空港(そらよかパーク清掃作業)等

③法人化の検討

法人化に向けた取り組みに関しては、より安定した経営基盤を確立できるように町内企業等への定期就業先確保等を進めるとともに、引き続き町との情報共有を継続しました。

【災害や緊急時対策に向けて】

2.1. 地域防災力の強化

地域の防災力を強化するために、災害時に連携した関係機関等とのつながりを今後の災害ボランティア活動につなげていけるよう関係機関との情報交換会に参加しました。

また、災害をテーマにしたワークショップへ参加し、災害ボランティアセンターの取り組みと7月豪雨災害を通じて見えた地域の助け合いについてプレゼンテーションを行いました。

(1) 地域防災相談・活動支援

地域等へ出向き、熊本地震の経験を活かし、地域自主防災活動を支援しました。

- ・防災訓練内容の相談 2件

(2) ワークショップ開催等

- ・7月2日(火) 復興まちづくりセンターにじいろ:「災害ボランティアセンターの取り組み」講話
- ・10月16日(水) 保健福祉センターはびねす:「赤ちゃんと子どもの命を守る防災」講話
子育て中の親子向け講座

(3) 研修等参加

- ・11月22日(金) 市町村災害ボランティアセンター設置・運営研修参加

(4) 関係機関との連携

6市町社会福祉協議会災害時相互応援協定

第1回連絡会議参加 10月4日(金)

- ・7月27日(土) 熊本市災害ボランティアセンター設置訓練 熊本大学
- ・10月5日(土) 天草市災害ボランティアセンター設置訓練 天草市
- ・11月22日(金) 御船町災害ボランティアセンター設置訓練 御船町

(5) 運営委員会

市町村災害ボランティアセンター運営強化推進会議参加 県ボランティアセンター

- ・8月21日(水) ・1月30日(木)

2.2. 災害ボランティアセンター

災害時の体制づくりとして、災害支援アプリ活用の学習会参加や協定先の訓練参加、熊本地震の経験を基に「災害の備えとして」講演や資料提供等を行いました。

また、全社協を通じて職員派遣要請を受け令和6年能登半島地震における災害ボランティアセンターへ職員派遣を行いました。

(1) Kintone 学習会参加（大規模災害時の ICT 活用）

9月27日(金) 10月30日(水)

(2) 協定先との連携

- ・7月27日(土) 熊本市災害ボランティアセンター設置訓練 熊本大学
- ・10月5日(土) 天草市災害ボランティアセンター設置訓練 天草市
- ・11月22日(金) 御船町災害ボランティアセンター設置訓練 御船町

(3) 講演等

- ・10月21日(月) 長野県松本市社会福祉大会
「熊本地震災害の経験をとおして」 災害に備えた顔の見える関係づくり
- ・11月26日(火) 長崎県市町村社会福祉協議会トップセミナー2024
「熊本地震災害の経験をとおして」
災害ボランティアセンターをはじめとした災害に関する取り組み及び課題

(4) 職員派遣（石川県珠洲市災害ボランティアセンター）

- ・第2クール 4月12日(金)～4月18日(木) 職員1名

- ・第18クール 6月15日(土)～6月21日(金) 職員1名
- ・第33クール 8月14日(水)～8月20日(火) 職員1名
- ・第54クール 12月4日(水)～12月10日(火) 職員1名

23. 社協活動の広報

社協事業や活動について、社協だより、ホームページ等で情報発信を継続しました。また、より効果的な広報活動を行うために職員研修会を実施し、広く活動を知ってもらえるように、新しい広報媒体についても検証・検討しました。

(1) 社協だより、ホームページ等での啓発継続

毎月1回(年12回)発行している「社協だより」を町の協力を得て町内全戸に配布し、社協活動を広く住民に理解していただくとともに、地域で行われている福祉活動の情報発信を行いました。事務局内から4名の広報担当を選出し、毎月の打ち合わせを行い、また、専門家の助言をいただきながらより見やすい広報誌づくりに努めました。

ホームページの更新も毎月行い、より閲覧しやすいように内容や写真などの更新を適宜行いました。また、月ごとに閲覧者数等を把握し、事務局内で情報共有を行いました。

(2) Facebook等のSNSの検討

フェイスブックを活用し、事業の情報発信を行いました。また、実習生の受け入れの際には、SNS情報発信効果について、若者目線の意見を参考にすることができました。

(3) 町の行事に参加し事業啓発

町総合防災訓練へ参加

災害ボランティアセンターについてのパネル展示、資材展示を行いました。

2月2日(日):訓練場所:飯野小学校体育館(職員4名参加)

その他

9月3日(火):金婚式スタッフ(職員4名参加)

Ⅲ. 困りごとを見逃さない地域づくり

【相談体制の充実に向けて】

24. コミュニティソーシャルワーカー(CSW) 配置事業の実施

コミュニティソーシャルワーカー(以下、CSW という)は、町と連携して重層的支援体制整備事業を推進するために、包括的相談支援、参加支援及び地域づくりに向けた支援を多機関協働事業を核として一体的に実施しました。

要支援者の属性・世代・相談内容に関わらず包括的に相談を受け止め(断らない相談支援)、相談援助を通じて要支援者の多様化・複合化した生活課題を整理し、関係機関・サービスにつなぐ支援を包括的に実施しました。

また、役場庁内とは各種会議を通じて、地域においては福祉ワークショップ(行政区別福祉座談

会)を通じて、困っている方及び気になる方の早期発見や地域関係者と支援機関のネットワーク構築を図り、見過ごさない体制づくりに努めました。

(1) 包括的相談支援・アウトリーチ等を通じた継続的支援・参加支援

①相談対応件数:59 件

②①のうち、アウトリーチ等を通じた継続的支援:21 件

③①のうち、参加支援:5 件

・多職種連携会議出席を通じての社会資源把握:12 回

(相談対応実績)

新規相談・支援終結・支援継続世帯

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計 (世帯)
新規相談	3	5	4	1	2	2	4	2	3	2	3	1	32
支援終結	1	7	5	1	3	2	1	2	0	1	0	9	32
支援継続	29	27	26	26	25	25	28	28	31	32	35	27	27

相談対応延件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計 (件)
電話	38	48	23	31	21	31	30	19	40	9	16	36	342
面談	6	16	9	14	14	16	18	13	16	16	16	23	177
訪問	8	15	18	19	19	15	18	16	22	15	16	25	206
同行支援	3	9	6	1	4	4	4	1	3	2	7	8	52
支援機関 との調整	32	75	28	85	98	77	102	49	91	72	97	101	907
合計	87	163	84	150	156	143	172	98	172	114	152	193	1,684

【第 6 回地域福祉実践研究九州セミナー in 益城の開催】

(日本地域福祉学会九州・沖縄部会と共催)

日時:10 月 5 日(土)13:30~17:00、10 月 6 日(日)10:00~12:00

会場:益城町交流情報センター

内容:1 日目

◎基調報告「益城町社会福祉士連絡会の挑戦～被災者支援から重層的支援体制へ」

益城町福祉課地域福祉係岩下係長、遠山(社協 CSW)

◎シンポジウム「被災者支援から考える重層的支援におけるソーシャルワーカーの役割」

広安愛児園松岡氏、熊東園北野氏、平成唯仁館柳氏

2 日目

ワークショップ 1「熊本地震時の対応、福祉避難所について」花へんろ中川氏

ワークショップ 2「多法人連携による福祉避難所開設運営ゲーム」

ワークショップ 3「日本地域福祉学会団体会員報告」

参加者:町内事業所、日本地域福祉学会九州・沖縄部会担当者等 58 名

(2) 多機関協働事業

①複数の課題を抱え、一つの支援機関等での対応が難しい要支援者については、CSWが調整役となり支援機関同士の支援調整、役割分担の整理、支援の進捗状況の把握、当事者及び家族への伴走支援等を実施しました。

・本人や家族、支援機関からの相談受付(新規):32件

②本人や家族、支援機関から相談があったケースのうち、当時者の同意を得たうえで関係機関等を招集し重層的支援会議を開催し、プラン適正や支援機関の役割分担や支援の方向性を検討する予定でしたが、今年度は開催することができませんでした。

次年度は当時者との関係性構築を通じて、同意を得て会議が開催を目指していきます。

・重層的支援会議の開催:なし

③他の支援機関等や地域関係者等のつながり作り支援を実施し、包括的相談支援事業の体制強化を図りました。

・支援機関の連携を図るため社会福祉士連絡会の開催:3回(第10～12回)

【事務局】CSW 【構成】町内の事業所等に勤務する社会福祉士

【内容】資質向上のための研修、事例検討、連携体制構築等

開催日	内容	講師	参加者(名)
7月1日(月)	対人援助職のためのストレスマネジメントについて	ゆかりカウンセリンググループ 坂上由香理氏	22
12月20日(金)	①第6回地域福祉実践研究九州セミナーin 益城 報告 ②益城町社会福祉協議会について	益城町社協 橋本	14
3月21日(金)	養護老人ホーム花へんろ見学	養護老人ホーム花へんろ 園田氏、赤星氏	14

・地域包括支援センター情報共有会議開催:6回(東部圏域3回 西部圏域3回)

④地域包括支援センター、他の支援機関、地域関係者及び庁内各課との連携・情報共有・協働を促進するための支援会議(ケース会議)開催やケースの共有を実施しました。

・支援会議の開催:22回

出席者:家族、区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員、福祉事務所、保健所、役場(福祉課各係、こども未来課等)、相談支援事業所、医療機関、包括等

・庁内支援会議の開催:2回

出席者:税務課債権管理係、水道課管理係、こども未来課子育て支援係、都市計画課建築係、福祉課(地域福祉係、包括支援係)

・社協在宅福祉課内ケース共有会議の開催:概ね月1回

社協在宅福祉課で、生活困窮者自立支援事業や生活福祉資金貸付、地域福祉権利擁護事業等を担当しているため、随時、課内でケースの共有や協働を行いました。

⑤住民からの相談をより専門的に受け止める総合相談窓口を開設しました。

総合相談所(心配ごと相談所)の開設:51回(毎週水曜日)

・専門相談員:司法書士、行政書士、行政相談委員

・相談員:民生児童委員、人権擁護委員、消費生活相談員

※詳細は25. 福祉相談の充実(1)②に掲載

⑥総合相談窓口の相談体制充実のための支援を実施しました。

・社協だよりへの掲載を通じてのCSW事業周知:12回(毎月)

・事業案内チラシを活用し、各関係機関への訪問や支援会議、行政区別福祉座談会等での事業周知:30回

(3)住民の福祉意識の向上

地域課題等の解決や啓発に向けた研修会、地域との情報共有会議の実施を通じて、地域関係者同士、また、地域関係者と支援機関のネットワークや見守り体制を構築するための情報提供やきっかけ作りを行い、住民の福祉意識の向上を図りました。

(福祉ワークショップ(行政区別福祉座談会)の開催)

地域に出向き、小地域単位での研修会を開催しました。行政区ごとに区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員等地域関係者に集まっていただき、関係者同士または地域関係者と支援機関等のネットワークや見守り体制の構築を目指し、地域課題や気になる世帯の情報共有を通じて、解決や情報交換のできる合同研修会を行いました。

【開催状況】31行政区(東部圏域:17 西部圏域:14)

【参加者】区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員、地域住民、
地域包括支援センター、実習生、社協等

【内容】①行政区域を地図で確認

②CSWの役割と地域との連携について

③事例検討(見守り活動を通じて発見した気になる世帯をどう支援したらいいか)

④地域で気になる世帯の情報共有

月	日	圏域	行政区	人数 (名)	参加者(地域関係者) 計 88 名
5	9	東部	平田中	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	13	東部	蛭子町	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	21	西部	下鶴	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
6	4	東部	田中	2	区長、高齢者相談・地域福祉委員
	13	東部	黒石崎	2	民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	27	西部	土山	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
7	2	西部	惣領4町内	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	9	東部	福原	2	区長、民生児童委員
	30	西部	木山下辻団地	2	区長(高齢者相談・地域福祉委員兼務)、 民生児童委員
8	1	西部	広崎2町内	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員

	6	東部	川内田	2	区長、高齢者相談・地域福祉委員
9	3	西部	櫛島	3	区長、民生児童委員、実習生
	11	西部	五楽	3	区長、高齢者相談・地域福祉委員、地域サロン代表
	27	東部	杉堂	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
10	4	東部	市ノ後団地	4	区長、民生児童委員 2 名、高齢者相談・地域福祉委員
	11	西部	安永 4 町内	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
11	8	東部	下陳	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	12	西部	下原	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	21	西部	中砥川	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	26	東部	寺迫	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
12	2	西部	中尾	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	4	東部	宮園	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	12	東部	堂園	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	24	東部	下町	2	区長、高齢者相談・地域福祉委員
1	9	西部	広崎 4 町内	4	区長、民生児童委員 2 名、高齢者相談・地域福祉委員
	23	東部	平田上	1	民生児童委員
	28	西部	本土山	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
2	7	東部	谷川	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	13	西部	惣領 2 町内	5	区長、民生児童委員 2 名、高齢者相談・地域福祉委員、実習生
	25	東部	平田境	3	区長、民生児童委員
3	4	西部	新川	3	区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員

(4) 重層的支援体制整備事業 視察対応

・6 月 8 日(土)宗像市社会福祉協議会

25. 福祉相談の充実

包括的支援体制を目指して、関係機関との連携を通じて総合相談や継続的な支援を推進し、課題を抱える方に対しては、アウトリーチや見守りネットワークで把握している情報により、相談対応を実施しました。

(1) ふれあい福祉総合相談所

①福祉相談の充実

誰もが日常的な困りごとを早期に安心して相談できるふれあい福祉総合相談所を常設し、プラットフォーム機能を活かし、相談対応を通じて専門機関等へつなぎました。また、生活課題を解決するために多機関・多職種と連携し相談対応を充実させました。

②心配ごと相談所の開設

地域住民が気軽に安心して、「困りごと」や「心配ごと」を相談できるプラットフォームとして毎週水曜日に開設し、ちょっとした困りごとから法律的な相談まで受付、専門機関や関係機関へのつなぎも行いました。開設にあたっては、専門相談員として司法書士や行政書士、行政相談委員、相談員として人権擁護委員、消費生活相談員、民生児童委員の協力を得て、どんなことでも気軽に相談できる総合相談体制で実施しました。

【会場】役場1階 相談室D

【開設回数】 51回(毎週水曜日) (前年度:48回)

【相談員延人数】 128名(専門相談員51名、相談員77名) (前年度:123名)

【相談者数】 226名(来所225名、電話1名) (前年度:210名)

【相談件数】 309件 (前年度:359件)

相談内容	生計	年金	住宅	家族	離婚	健康・衛生	医療	精神衛生	人権・法律	財産	事故	教育・青少年	心身障害者児福祉	老人福祉	苦情	その他	合計
相談件数(件)	5	9	17	36	7	1	1	1	76	113	7	1	1	7	1	26	309
割合(%)	1.6	2.9	5.5	11.7	2.3	0.3	0.3	0.3	24.6	36.6	2.3	0.3	0.3	2.3	0.3	8.4	100

◎心配ごと相談員研修会の開催

地域住民からの様々な心配ごとに応じる相談員の資質向上を図ることを目的として、心配ごと相談員研修会を開催しました。

【開催日】1月30日(木)

【内 容】「詐欺被害」について

【講 師】宮田総合法律事務所 弁護士 森枝 大輔氏

【参加者】48名(専門相談員、人権擁護委員、民生児童委員)

③課題対応のための連携

生活困窮者自立支援事業の自立相談支援事業やひきこもり相談窓口等、住民困りごと窓口として開設し、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)や他の専門機関と連携して課題の解決に努めました。

a. 職員全体による包括的な相談体制の充実(窓口対応体制)

b. 専門相談機関との連携

町行政、弁護士会、司法書士会、社会福祉士会、消費生活センター、警察等

(2) ひきこもり相談窓口 (アウトリーチ等支援の充実)

生活困窮者自立支援事業やCSW事業を通じて、困りごとのある方や困り感の表出が難しい方、または、その家族に寄り添い、アウトリーチ等による包括的な支援に努めました。

ケースに応じて、民生児童委員をはじめとした地域関係者や支援機関と情報共有を行いました。

(3) 福祉機器無料貸し出し

①車椅子の貸し出し

外出時や体調不良時等に車椅子が一時的に必要な方に対して、1ヶ月を限度として無料で貸し出しを行いました。また、幼児や小中学生からの貸し出し依頼もあり、理由は骨折によるものが殆どでした。

車いす貸し出し:35 件(うち幼児や小中学生への貸し出し:4 件)

②疑似体験セットの貸し出し

疑似体験セット貸し出し:2 件

26. 相談体制強化に向けた連携

住民の多様化する相談ニーズに対応するために、専門機関等の関係機関との連携強化に努めました。また、目先の課題解決のみならず伴走型の継続支援を行っていくため、コミュニティソーシャルワーカー等の関係機関と連携し、包括的支援を実施しました。

【福祉サービスの充実に向けて】

27. 見守り体制の充実

近隣での日常的な見守りを実現するために、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員、サロン協力員等への啓発や協力を要請し、見守り体制の充実を図りました。また、民生児童委員等の協力で課題を抱える人・世帯の実態把握を行いました。

(1) 見守り活動の支援 (再掲)

(2) 実態把握

・実態調査

民生委員委員の協力を得て、一人暮らし高齢者や在宅介護者及び要介護者の実態調査を行いました。また、見守り体制構築に向けた取り組みの一環として、主に町営団地にお住まいの一人暮らし高齢者を対象に益城つながりバトン(緊急時医療情報)の設置及び更新を民生児童委員と連携して実施しました。

・益城つながりバトン設置状況 : 156 件

・見舞事業

一人暮らし高齢者及び在宅要介護者に対し、歳末たすけあい見舞事業として、掃除セットを配布しました。なお、65 歳～74 歳の一人暮らし高齢者については、民生児童委員調査により、介護度、障がいの状態、経済的理由等を考慮して配布しました。

・歳末たすけあい見舞配布数:830 世帯

	配布世帯
一人暮らし高齢者	599
在宅要介護者	201
相談に来られた方	30
合計	830

28. 認知症に関する地域支援

(1) 認知症地域支援・ケア向上事業（認知症地域支援推進員）

①関係機関との連携

- ・認知症の方に対して、状態に応じた適正なサービスが提供されるように、認知症疾患医療センターや医療機関、介護サービス事業所、地域包括支援センター、また認知症の方を支援する関係団体等との連携を図りました。
- ・毎月「認知症ネットワーク連携会議」に参加し、認知症事業についての情報交換や意見交換を行いました。（町役場福祉課、地域包括支援センター、認知症疾患医療センター等）
- ・認知症初期集中支援チーム員会議に参加し、困難事例の検討を行いました。

②相談体制の構築及び啓発活動

- ・認知症の方やその家族等からの初期相談の場として、「もの忘れ相談室」を開催し、必要に応じて情報提供や適切な機関へつなぎ、認知症予防と介護負担の軽減を図りました。

（毎月、第3火曜日に開催）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (名)
2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	6

※相談先経路:地域包括支援センター、認知症疾患医療センター益城病院

- ・認知症ケアパス・ガイドブックを関係機関や民間企業、地域サロンなどで配布し、相談体制の充実を図りました。
- ・地域住民へ認知症に関する周知、啓発のために、9月のアルツハイマー月間の際に、町及び町内小中学校の図書館に関係図書の展示やチラシなどを置くことや町民向けに「ましきオレンジフェスタ」(9月29日)を行うことで、若年層も含めた認知症啓発活動を行いました。

③介護保険施設等に対する多職種協働等の支援体制の取り組み

- ・医療、介護等の機関が相互の役割・機能を理解し、統合的なケアにつなげていくため、認知症ケアの知識や多職種協働の重要性等を習得する「認知症多職種協働研修会」を実施しました。

10月1日(火) 第5回認知症多職種協働研修会「認知症の現状や県の取り組みについて」

講師:熊本県健康福祉部認知症施策・地域ケア推進課より 参加者:38名

2月5日(水) 第6回認知症多職種協働研修会「認知症高齢者の食支援と口腔ケアについて」

講師:共愛歯科医院 副院長 園田隆紹氏 参加者:31名

④認知症の人とその家族に対する支援事業

- ・認知症の人を介護する家族等が交流を深め、日常の介護負担の相談、思いを一緒に語り合い、息抜きができる場として「介護者応援隊いきぬこ〜会」を開催しました。

（奇数月 第4水曜日に開催）

5月	7月	9月	11月	1月	3月	合計(名)
6	4	3	4	4	9	30

- ・益城町で展開している「認知症カフェ」の活動支援及び開設の支援を行い、認知症の人を支えるつながりの構築や社会参加、また、家族の介護負担軽減の支援を図りました。

（「花カフェ」:第2水曜日 寺迫公民館→1月よりじいろに変更）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (名)
8	8	8	9	中止	8	6	8	8	19	6	9	97

(「はっこり茶屋」:第4火曜日 下辻団地集会所)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (名)
11	9	12	12	11	10	9	12	13	11	11	11	132

他にも益城病院開催のオレンジカフェ(下砥川、市ノ後、福富)にも参加し、支援を行いました。

(2) 認知症サポーター等養成事業(認知症地域支援推進員)

① 認知症サポーター養成講座の開催

a. 認知症サポーター養成講座

認知症に対する理解と地域での支え合いを深めるため、認知症サポーター養成講座を開催しました。 合計:541名(前年度:533名)

・地域住民向け認知症サポーター養成講座の開催

(開催:1月8日) 受講者:19名(役場職員含む)

・小、中学校での認知症サポーター養成講座の開催(受講者:467名)

学校名	開催日	受講者数(名)
広安小学校	9月6日(金)	143
津森小学校	9月20日(金)	15
広安西小学校	10月9日(水)	142
益城中央小学校	11月6日(水)	87
飯野小学校	12月19日(木)20日(金)	80

・町内の民間企業や団体等向け認知症サポーター養成講座の開催(受講者:55名)

企業・団体名	開催日	受講者数(名)
くまもと生協	5月24日(金)	26
民生委員高齢者福祉部会	6月6日(木)	12
地域福祉塾	8月16日(金)	4
平田さわやかサロン	1月14日(火)	6
くまもと生協	3月4日(火)	7

・認知症講話

8月22日(木)馬水北まごころサロン

10月18日(金)畑中サロン

b. キャラバン・メイト養成研修等

・認知症サポーター養成講座の講師役であるキャラバン・メイト活動の充実を図るため、また、キャラバン・メイトの活動を進めていくために、事務局としてキャラバン・メイト連絡会を開催し養成講座に向けての調整や学びを深める場を開催しました。

(第1回)8月1日(木) 参加者:12名

(第2回)3月14日(金) 参加者:10名

② 認知症サポーターステップアップ講座の開催

認知症サポーター養成講座修了者を対象に、認知症サポーターとして活動する中でさらに専門的な知識を深めていただき、認知症の方に対する個別支援や地域づくりなど、実際の支援活

動につなげることを目的とした「認知症サポーターステップアップ講座」を開催しました。

開催日:2月19日(水)、2月27日(木)

講師:益城病院 副医局長 吉村裕子、オレンジコーディネーター 堀光代

今年度受講者:14名 合計52名(令和3年度から令和5年度受講者38名)

受講後は14名が県の認知症アクティブサポーターとして登録し、今後はアクティブサポーターとして、地域の認知症の方を支える活動が出来るように支援していきます。

(3) 認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業 (オレンジコーディネーター)

① 認知症サポーターの活動促進

認知症サポーターステップアップ講座修了後、活動をさらに一步前進させ、認知症アクティブサポーターとして地域で活動できるよう、定期的な学びの機会(認知症サポーターステップアップ応用講座)を開催しました。

・認知症サポーターステップアップ応用講座

(第1回)開催日:7月23日(火) 内容:いざという時の救急蘇生法 参加者:11名

(第2回)開催日:12月4日(水) 内容:高齢者における感染症予防 参加者:16名

(第3回)開催日:3月12日(水) 内容:高齢期を健やかに過ごす低栄養予防 参加者:13名

・認知症サポーターの活動促進のため夕暮れカフェでの支援スタッフとしての活動を促しました。

② 「チームオレンジ」の支援

地域の認知症の人(当事者)やその家族の抱えている介護に関するニーズと認知症アクティブサポーターをつなぐ仕組み(チームオレンジ)を整備し、その運営を検討してきました。益城病院のオレンジコーディネーターと連携し、下砥川オレンジサロンに関しては認知症の方と一緒に高齢者の特技を生かした料理教室の活動支援を行いました。福富チームオレンジに関しては「オレンジカフェ」や「夕暮れカフェ」など行い、地域でみんなが見守れる体制の継続支援を行いました。認知症アクティブサポーターの活動へのマッチングや活動に巻き込んで行くことを課題と捉えています。

③ オレンジコーディネーターとの連携

益城病院のオレンジコーディネーターと定期的に情報交換・共有を行い、チームオレンジ活動を支援しました。

29. 介護に関する福祉サービスの充実

介護が必要な人やその家族の介護負担を軽減するために、様々なサービスを提案しました。

また、居宅介護支援事業については、高齢者ができる限り住み慣れた居宅において日常生活を営むことができるよう生活全般の支援を行うとともに、家族の介護負担の軽減のためにスムーズに利用できるような包括的な支援を行いました。

(1) 居宅介護支援(介護予防支援)事業

① 介護保険についての相談体制の充実

介護支援専門員が介護を必要としている高齢者やその家族等の相談支援を行いました。

介護に関する相談18件(本人・家族からの相談:16件、関係機関からの相談:2件)

相談内容を東・西地域包括支援センター等へ引継ぎ連携しました。

・11月21日:西部包括支援センターへ出向き、日常業務の振り返りを行いました。

②介護保険サービス等の利用に関する支援

介護保険サービス等の利用を希望される方に対して、課題分析を行ったうえで目標を明確化し、利用者やその家族の意向を尊重しながら必要なサービスを提案しました。また、各サービス事業所担当者等との会議を行い、適切なサービス利用に向けて調整を行いました。コロナ禍の影響も落ち着き、延長措置の適用がなくなりました。

③サービス実施状況の把握と継続的な支援

定期的に利用者宅を訪問し、身体状況や生活環境を把握することで、サービス実施状況の評価を行い、利用者のニーズに沿ったサービス利用の調整を随時行いました。また、それに伴う給付管理業務を行いました。

・介護支援専門員:3名

・利用者延人数:介護:461名、介護予防:45名

【居宅介護支援利用者数:介護】

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用者 延人数(名)	201	116	72	62	10	461
割合(%)	43.6	25.2	15.6	13.4	2.2	100

【居宅介護支援利用者数:介護予防】

介護度	要支援1	要支援2	合計
利用者 延人数(名)	10	35	45
割合(%)	22.2	77.8	100

④各関係機関との連携の強化

介護予防支援業務を受託する中で、担当の地域包括支援センターと密に連携しながら、要支援認定者等の支援を行いました。また、個々の日常生活が円滑に行われるように地域包括支援センター、医療機関等と日頃から連携を図り、高齢者のニーズに応じたケアマネジメントに努めました。

⑤ケアプランの質の向上への取り組み

町の介護給付費適正化事業におけるケアプラン点検や町介護支援専門員連絡会、町主任介護支援専門員の会へ参加し、個々がケアプランの妥当性やサービス実施状況を検証し、多様化するニーズに対応できるよう介護支援専門員の質の向上に努めました。

また、地域ケア会議へ参加することで、多職種からの意見を参考にしながら、自立支援を目指したケアマネジメント業務の強化に努めるとともに、地域資源の活用などの検討を行いました。

a. 益城町介護給付費適正化事業(ケアプラン点検)

7月プラン提出 :対象者の抽出要件(対象者2名)

- ・支給限度額が一定割合超える方
- ・認定調査状況利用サービス内容が不一致の方
- ・区分変更申請書、要介護新規申請があった方

2月25日(火):ケアプラン点検研修会 講師:くもと健康支援研究所 石原 純生氏

b. 益城町介護支援専門員連絡会

5月17日(金):事例発表、グループワーク等

7月18日(木):介護報酬改定から3ヶ月、気になる課題について意見交換

9月19日(木):ヤングケアラーと介護者支援について

11月21日(木):主任介護支援専門員部会

「障害者差別って何?」:広域専門相談員 廣瀬 眞由美氏

1月16日(木):福祉用具購入、住宅改修について

2月14日(金):管理者会

c. 地域ケア会議への事例提供は7年度の予定です。

d. 様々な研修会へ参加し質の向上に努めました。

10月30日:上益城権利擁護研修会:「権利擁護と成年後見制度について」

10月30日:認知症講演会:認知症の治療について 新たな抗体治療薬について

10月31日:自立支援型地域ケア会議振り返り会及び地域課題研修会

2月5日:認知症多職種協働研修:「明日から始める認知症の食支援と口腔ケア」

2月15日:認知症疾患医療センター事例検討会

:「被害妄想がある方の支援」

:「認知症 BPSD への対応について」

⑥業務継続計画（BCP）作成と取り組み

感染症や災害等が発生し、一時中断した場合であっても、必要なサービスを継続的に提供するために早期の業務再開を図るための業務継続計画(BCP)を策定し、今後も状況を把握し柔軟な対応を図ります。

- ・2月12日:保健福祉センターはびねす避難訓練に合わせ、緊急時の連絡体制について再確認しました。

⑦介護サービスの啓発活動

介護保険の啓発に向け社協が行う様々な地域活動で、介護保険等の説明などを行いました。

また、介護サービス情報公表システムにより、介護サービス情報を公表することで事業内容の情報を発信し、事業の明確化を図りました。

- ・12月13日:介護サービス情報の公表(今年度より財務諸表または計算書類等の掲載が必要)
- ・2月19日:安永2町内サロン「介護保険施設の種類と役割について」講話(8名参加)
- ・3月21日:杉堂しおいサロン:「介護保険施設の種類と役割について」講話(7名参加)

⑧介護報酬改定へ向けた研修会参加

- ・介護報酬改定について介護支援専門員連絡会にて振り返りを行いました。

30. 成年後見・市民後見等の検討

地域住民が安心して住み続けられるように権利擁護の支援体制を整えました。その中で、10月に熊本家庭裁判所より法人後見事業の設置承認が下り、地域福祉権利擁護事業利用者の成年後見制度への移行も法人後見業務検討委員会で検討しました。

(1) 地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）の実施

認知症高齢者や障がい者等の在宅での生活支援を行うために、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理、貴重品預かり等を実施しました。

利用者数:9 件(新規契約 1 件・契約終了 2 件)

(前年度:利用者数 10 件)

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	合計
契約件数 (継続含)(件)	3	2	4	9
生活支援員 支援回数(回)	109	91	218	418
電話来所 相談(回)	55	414	214	683

(2) 成年後見・法人後見事業

今年度より成年後見法人後見事業を開始しました。事業開始に向けて、既に事業を実施している 4 市町社協の視察を行い、事業の体制等について学びました。

10 月 8 日(火):水俣市社協、人吉市社協

10 月 17 日(木):玉東町社協

10 月 31 日(木):山鹿市社協

・熊本家庭裁判所より 10 月 31 日に法人後見事業の設置承認が下り、受任に向けての準備を実施しました。

・第 1 回法人後見業務検討委員会

【開催日】2 月 13 日(木)

【内容】①検討委員委嘱状交付

②法人後見業務取組主旨説明、地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)の現状

③法定後見活用案件の説明等

【出席者】11 名:弁護士、司法書士、東西地域包括支援センター、町福祉課、社協

・上益城地域成年後見制度利用促進協議会に参加し、上益城ブロックでの成年後見制度の利用促進、困難事例検討、権利擁護について学びを深めました。

3 1. 生活困窮者への支援

生計に課題のある方が経済的に自立するために、家計管理のアドバイスや仕事探し、子どもの学習支援等を総合的に行い、生活困窮者自立支援事業を実施しました。

また、社協だよりやホームページへ貸付事業等の情報掲載や相談窓口の広報を行いました。

(1) 生計に課題のある人への支援（貸付事業）

民生児童委員の相談援助と資金貸付により、要援助世帯の生活を支援しました。コロナ特例貸付をされた方の相談援助を行い、償還の滞納がある方へは償還猶予の案内等を行い、非課税世帯や生活保護世帯になられた方へは償還免除手続き支援を行いました。安心した生活が送れるように支援しました。

①生活福祉資金貸付事業（県社協事務受託）

・総合支援資金	0 件	0 円	(前年度:1 件 570,000 円)
・教育支援資金	1 件	744,000 円	(前年度:0 件 0 円)
・要保護世帯向け不動産担保型生活資金	4,410,000 円		(前年度:0 件 0 円)
・電話来局相談	23 件		(前年度:29 件)

②福祉金庫貸付事業（限度額 5 万円）

・貸付	0 件	(前年度:0 件 0 円)
・電話来局相談	2 件	(前年度:0 件)
・償還額	0 件	(前年度:0 件)

③高額療養費貸付事業

・貸付	0 件	(前年度:0 件)
・電話来局相談	0 件	(前年度:0 件)

令和 5 年 1 月よりコロナ特例貸付の償還(新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付債権管理業務)が始まり、償還が滞っている方や生活が困窮している方へ償還猶予の案内を実施しました。

- ・償還猶予申請者数:8 名
- ・住所変更手続き申請:1 名
- ・生活保護世帯の償還免除手続き:1 件

(2) 生活に課題がある方への支援（再掲）

生活困窮者自立支援事業の自立相談支援事業等を社協だより等を通じて広報を行い、住民の困りごと相談窓口として、コミュニティソーシャルワーカーや他の専門機関と連携し、相談対応を通じて課題解決に努めました。

【連携体制の強化に向けて】

3 2. 福祉関係団体事務局への協力、事業所との連携

区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員等と連携して、地域支え合い活動を推進するとともに、委員の方には、気になる(課題を抱える)人への目配りを行っていただき、関係機関へつなぐ等の支援を行いました。また、事業所向けの認知症サポーター養成講座や認知症多職種協働研修会を開催し、見守りの必要性を啓発するとともに、ネットワークづくりの支援を行いました。

(1) 民生委員児童委員協議会総務会、例会への参加

民生委員児童委員協議会の事務局として総務会や例会の開催支援や事務的支援を行い、地域における調査支援や活動支援を行いました。

(2) 高齢者相談・地域福祉委員（再掲）

(3) 関係機関の情報共有会（顔合わせ）の実施(再掲)

(4) 事業所向け認知症多職種協働研修会の開催(再掲)

3 3. 町や地域の多様な主体との連携強化

誰も取り残さない社会の実現のために、町との連携を強化し、町の行う重層的支援体制整備事業

をはじめとする、様々な事業を推進する中で、地域の多様な主体(区長、民生児童委員、高齢者相談・地域福祉委員、老人クラブ、婦人会、PTA等)の地域活動を支援し、連携強化を図りました。

(1) 見守りやアウトリーチ等支援

支援対象者を中心に地域の関係機関等と連携して、見守りネットワークを推進していくとともに必要な支援が届いていない世帯へは、連携を通じてアウトリーチ等の支援を実施しました。

3 4. 関係団体への活動支援

関係各団体が活発に活動するために、助成を行いました。また、「社協だより」を通じて関係団体の活動を紹介しました。

(1) 団体助成の推進

・ 情報発信

関係団体へ、助成金に関する情報発信を行いました。

・ 後方支援

助成金を活用できるように、情報の提供と書類作成を行いました。

・ ふるさとづくり助成事業

地域の公共施設である公民館や公園等の整備に対し助成をし、募金活動の広報や協力呼びかけを行いましたが、今年度は申請がありませんでした。

(2) 関係団体への助成

各福祉団体の活動費として助成しました。

助成団体

- ・民生委員児童委員協議会 ・老人クラブ連合会 ・身体障害者福祉協会
- ・ボランティア連絡協議会 ・保護司会 ・遺族会 ・NPO法人子育ておおきな木

IV. 社会福祉協議会の体制整備

1. 社協体制の強化

(1) 組織活動の充実

地域共生社会の実現に向け、各課の垣根を越えた一体的な連携を図る体制を整え、また、新型コロナウイルス感染症が落ち着く中、体面による地域活動の充実を図るために各関係機関、団体、行政等の連携を密にし、住民主体の地域づくりを実施するとともに住民の期待に対応できる体制づくりに努めました。

(2) 拠点（事務所）の確保

町や企業からの支援による新事務所確保に向け、近隣社協事務所の視察を行いながら職員内でもレイアウト等を検討し、職員が働きやすい環境づくりはもとより、誰もが集えるプラットホームの実現に向けて進めてまいりました。

(3) 理事会・評議員会の充実

① 理事会・評議員会の開催

・理事会 3 回開催

第1回理事会:5月29日

1. 令和5年度益城町社会福祉協議会事業報告について
2. 令和5年度益城町社会福祉協議会会計決算について(監査報告)
3. 令和6年度益城町社会福祉協議会会計補正予算について
4. 益城町社会福祉協議会事務局職員就業規則の一部を改正する規則の制定について
5. 補欠に伴う評議員選任候補者の推薦について
6. 令和6年度第1回評議員選任・解任委員会の開催について
7. 令和6年度第1回評議員会の開催について

第2回理事会:6月24日

1. 常務理事の選定について

第3回理事会:3月17日

1. 令和6年度益城町社会福祉協議会会計補正予算について
2. 令和7年度益城町社会福祉協議会事業計画について
3. 令和7年度益城町社会福祉協議会会計予算について
4. 益城町社会福祉協議会事務局職員就業規則を改定する規程の制定について
5. 補欠に伴う評議員選任候補者の推薦について
6. 令和6年度第2回評議員選任・解任委員会の開催について
7. 令和6年度第2回評議員会の開催について
8. 役員等賠償責任保険契約について

・評議員会 2 回開催

第1回評議員会:6月20日

1. 令和5年度益城町社会福祉協議会事業報告について
2. 令和5年度益城町社会福祉協議会会計決算について(監査報告)
3. 令和6年度益城町社会福祉協議会会計補正予算について
4. 補欠に伴う理事の選任について

第2回評議員会:3月27日

1. 令和6年度益城町社会福祉協議会会計補正予算について
2. 令和7年度益城町社会福祉協議会事業計画について
3. 令和7年度益城町社会福祉協議会会計予算について

(4) 職員資質の向上・働く環境の整備

①職員会議を毎月開催し、情報の共有を行うとともに、研修会を開催しました。令和6年度は職員が受講した研修の他、事業報告等を含めた復命研修を行いました。

②毎月2回課長・係長会議を開催し、各課の状況や実績、課題等の共有、各課一体となった事業運営を進めることができるよう努めました。

③職員の資質向上及び地域福祉推進に向けた人材育成への取り組み

(社会福祉士、介護福祉士、主任介護支援専門員、介護支援専門員等)

今年度新たに資格取得した職員はいませんでした。が、県社会福祉協議会が主催するキャリアパス研修や経験年数や役職等による多様な研修に参加することで、資質の向上を図りました。

④福祉サービス苦情解決第三者委員と事務局との内部研修会を2月6日に実施し、苦情受付状況の報告や意見交換を行いました。また、その後、熊本県運営適正化委員会主催の第三者委員向け研修に参加していただきました。(3名)

2. 財政基盤の強化

(1) 財政基盤づくり

社会福祉協議会は、地域住民に対し福祉サービスを無料または低額で提供しており地域住民にとって身近な相談機関として活動しています。この活動を継続していくためにも安定した財政基盤づくりが必要であり、町からの補助金や受託金をはじめ、住民や企業からの寄付金、介護保険やシルバー人材センターの事業収入、共同募金、日赤会費、震災における支援金などの活用においては効率的な活用に努めるとともに、法人後見事業や身寄りのない高齢者等の支援事業における国や県、各種財団等の補助や助成事業も模索しました。

(2) 町補助金

町の補助金は、社会福祉協議会の使命でもある「地域福祉の推進」を図るための貴重な財源であり、社協事業を継続していくためにも、社協が担っている地域福祉推進の役割や意義等について、町と協議を行いました。

	補助事業名	補助金額(円)
1	社協活動補助金(町)	13,500,000
2	介護予防活動組織支援事業補助金(町)	1,100,000
3	シルバー人材センター補助金(町)	1,350,000
4	法人後見事業(県社協)	300,000
5	共同募金配分金(県共同募金会)	6,106,010
6	緊急・一時支援事業補助金(県)	202,967
7	能登半島地震災害ボランティア運営支援補助金(県社協)	532,010

(3) 受託事業

町、県社協と協議しながら必要な事業を展開しました。

	受託事業名	受託金額(円)
1	高齢者相談・地域福祉委員設置事業(町)	1,000,000
2	家族介護者交流事業(町)	450,000
3	第1層生活支援コーディネーター設置事業(町)	2,000,000
4	ふれあい交流会事業(町)	364,000

5	地域福祉担い手養成及び活動支援(町)	590,000
6	コミュニティソーシャルワーカー配置事業(町)	19,791,000
7	心配ごと相談事業(町)	622,000
8	地域サロンコーディネーター配置事業(町)	9,173,000
9	認知症活動促進事業(町)	1,603,000
10	認知症地域支援・ケア向上事業(町)	5,372,000
11	認知症サポーター等養成事業(町)	1,300,000
12	生活福祉資金貸付事業事務費(県社協)	29,000
13	生活福祉資金特例(コロナ特例)貸付事業 償還フォロー事務費(県社協)	3,731,000
14	地域福祉権利擁護事業(県社協)	942,650
15	生活困窮者(自立相談支援)事業(県社協)	3,000,000
16	生活困窮者(総合相談支援窓口)事業 (県社協負担金収入)	2,008,000

(4) 共同募金配分事業

主体的に行われる住民活動による多世代交流や新たな居場所づくりなど、子育て世代から高齢者まで、住民同士の支え合いのコミュニティづくりや各種団体活動事業など、創意工夫し取り組みました。

(5) 事業収入

介護保険事業やシルバー人材センター事業に取り組み、安定した収入確保に努めました。

- ①介護保険事業(居宅介護支援事業所)
- ②シルバー人材センター事業(公益事業会計)

(6) 寄付金

地域福祉活動の充実を図るために香典返し寄付や一般寄付を受け付けました。

- ①香典返し寄付金 144 件 3,509,500 円 (前年度:162 件、4,510,000 円)

※初盆供養:香典返し寄付者(令和5年7月～令和6年7月寄付者)に対して、町内特産品詰合せを贈りました。

- 町内特産品詰合せ 168 件 276,721 円 (前年度:143 件、271,236 円)
- ②一般寄付金 2 件 56,000 円 (前年度:3 件、129,000 円)

(7) 支援金

本年度は、支援金募集はありませんでした。 (前年度:8 件、891,500 円)

(8) 日本赤十字社益城町分区事業

①赤十字運動

5 月に赤十字運動を実施し、日本赤十字社益城町分区として区長や赤十字地域奉仕団(婦人会)の協力を得て会費募集を行いました。

a. 会費募集

単位:円

	会費の種類	実績	前年度実績	比較増減
1	一般会費	3,367,400	3,285,700	81,700
2	法人会費	55,000	55,000	0
3	口座振替等	111,500	82,412	29,088
4	その他(利息)	94	0	94
	合計	3,533,994	3,423,112	110,882

b. 日赤事務事業費交付金収入 678,998 円 (前年度:670,922 円)

※日赤事務費事業費交付金支出

・車両任意保険・車検費用、区長会・奉仕団助成、事務的経費等

②事業(災害支援等)

災害時において現場状況確認を行いました。

・住宅火災全壊 1ヶ所(2月24日:益城町古閑)

その他、倉庫の火災や住居一部焼失がありましたが、緊急支援物資の配布はありませんでした。

また、関係機関との情報共有を行いました。

(9) 熊本県共同募金会益城町共同募金委員会事業**①共同募金事業**

区長・民生児童委員・老人クラブ等の協力を得て共同募金運動を展開しました。10月に赤い羽根共同募金、11月に歳末たすけあい募金運動を行いました。

また、11月開催のみんなの秋まつりでは、街頭募金を実施しました。

a. 赤い羽根共同募金

単位:円

	募金の種類	実績	前年度実績	比較増減
1	戸別募金	3,289,500	3,326,500	△37,000
2	法人募金	786,524	1,305,234	△518,710
3	職域募金	169,155	182,883	△13,728
4	ワッペン募金	84,221	101,930	△17,709
5	自販機	142,484	139,808	2,676
6	バッジ	73,500	74,500	△1,000
7	イベント	38,735	44,747	△6,012
8	募金箱(7ヶ所)	25,154	23,735	1,419
9	個人	0	5,625	△5,625
10	その他(利息)	223	4	219
	合計	4,609,496	5,204,966	△595,470

b. 歳末たすけあい募金

単位:円

	募金の種類	実績	前年度実績	比較増減
1	戸別募金	2,268,636	2,257,100	11,536
2	竹筒募金	240,405	263,943	△23,538
3	その他(利息)	166	1	165
	合計	2,509,207	2,521,044	△11,837

赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金合計 7,118,703 円 (前年度:7,726,010 円)

c. 共同募金配分金収入 5,478,703 円 (前年度:6,117,852 円)

②共同募金報告会

地域の区長を対象に共同募金の実績報告と活用方法、令和 6 年度共同募金運動の協力依頼を行いました。

開催日:10 月 3 日(木)

場所:保健福祉センター多目的室

対象者:各行政区の区長 参加者:57 名

内容:【報告】令和 5 年度共同募金及び配分事業

令和 6 年度共同募金運動及び小地域活動配分金

【事業説明】シルバー人材センター事業